

## 東アジア研究学域 入学前課題講評

課題①は、2017年12月20日から2018年1月9日までの新聞から、中国（香港・マカオを含む）・台湾および韓国・北朝鮮に関わる記事を全て探し出し、それらの記事の掲載日と見出しの一覧を作成する、というものでした。

21世紀に入り、東アジア各国の情勢は刻一刻と変化しています。東アジア研究学域は、中国古典文学や思想、東洋史、現代中国・台湾・韓国・北朝鮮など、中国や朝鮮半島を中心とする東アジア地域に関わる様々な事柄について幅広く学ぶことができる学域です。課題①では、一定期間に掲載されたすべての記事の一覧を作成し、自分が関心を持つ事柄に限定せず、政治・経済・社会・文化など、今まさに東アジア地域で起こっている事柄について情報を収集し、幅広く関心をもってもらうことを意図しました。

調査対象となる新聞は、各自が自宅や図書館などで読むことのできる新聞1紙としましたが、選択された新聞は全国紙から各地の地方紙まで様々で、中には複数の新聞から情報収集した生徒もいました。今回の該当期間中には、北朝鮮の核ミサイル開発や日韓慰安婦合意をめぐる問題について、かなり多くの記事が掲載されました。一方、中国に関しては、一帯一路構想など経済に関する記事が中心でした。提出物では、多くの生徒が中国と朝鮮半島に関する記事を丁寧に探し出し、数ページにわたるリストを作成していました。一方で、一覧の記事数がかなり少ないものも散見されました。同じ新聞を選んだ場合でも記事数が少ないということは、見出しに見落としがあったということです。東アジア研究学域では、今後も様々な調査で新聞記事を利用することが出てきます。日頃から、新聞・テレビ・インターネットなどのニュース報道を通じて、最新の東アジア情勢に対して常に関心を向けるよう努力を続けてください。

課題②では、見出し一覧の記事を全て読んだ上で、日中韓三国の関係について、自分の考えを1200字程度で書いてもらう、というものでした。出題意図としては、見出しだけではなく、記事の内容をしっかりと読んで理解し、さらにその内容について深く考えてもらうことが目的でした。

提出物の多くは、やはり北朝鮮問題について論じたものでしたが、東アジアの地域情勢が緊迫の度合いを高めていく中、どうすれば日中韓の三国間に横たわる様々な問題を解決できるのか、そのためには東アジア学域で何を学び、それをどう活かしていけばよいのかについて、他人事ではなく自分の問題として真剣に考察したものが見られました。また、新聞記事だけでなく、他の書籍やネット情報などを参考にしつつ論じたものもありました。自分の考えを展開するにあたって、様々な資料や情報を使って議論を深めることは、今後の大学での学びの中でも、もっとも基本的かつ重要なことです。

なお、今回の課題提出率は95%で、例年以上に良好な結果となりました。すでに入学が決まり、最も自由に過ごすことのできる時間の多いこの時期に、大学での学びに向けた準備を怠らず、努力を積み重ねていくことで、自分の可能性をさらに広げていってください。